

平成26年度放射線安全取扱部会年次大会 (第55回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

平成26年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成26年10月30日(木)、31日(金)の2日間、平成26年度放射線安全取扱部会年次大会(第55回放射線管理講習会)が北海道立道民活動センター(かでる2・7)(札幌市)で開催された。実行委員会ではより良い放射線安全取扱部会と年次大会の運営のため、アンケート調査を実施した。参加登録者総数291名のうち半数の145名から回答が寄せられたので、その結果

を報告する。

1 年次大会全体について

アンケートはプログラムごとに5段階評価(5点が良い。1点が悪い。)で記入し、具体的な感想、コメントもお願いした。図1にプログラムごとの評価点を、また図2にプログラムの平均点の分布を示す。年次大会全体としては

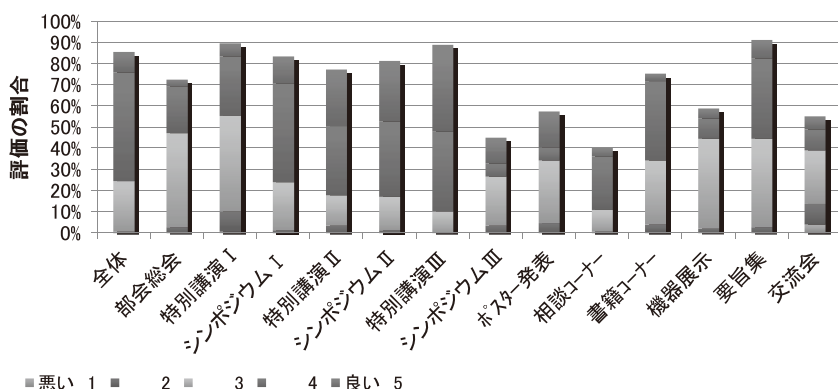


図1 年次大会プログラムに関するアンケート結果

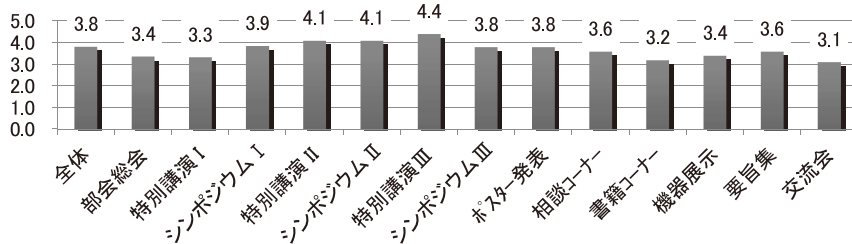


図2 年次大会各プログラムの評価点(平均点)

主任者 コーナー

3.8 という良好な評価点であり、プログラムごとにはそれぞれ 3.1～4.4 の評価点である。全体のコメントでは、「メインテーマに沿った内容で充実していた」、「ほぼ時間通りに進行し、会場設定も良い」、「放射線利用に関する視野が広がった」、「他事業所の人との交流ができた」、などの好評価が大多数を占めた。「プログラムの中で安全取扱部会を以前の主任者部会の名称で呼んでいた」、「スライド発表時の会場が暗すぎる」という意見も寄せられた。指摘された点については、我々の配慮が足りなかったことを反省し、その改善は次の実行委員会に引き継いでいく。

1-1 部会総会

有効回答率は 73%，プログラムの中で最も不参加の割合が高い（24%）。評価点は 3.4。コメントの半数が、「要点が分かりやすい発表であった」、「部会活動をよくやっている」という一定の評価があったものの、「支部活動をもっと詳しく示してほしい」、「上から目線の報告会という感じが否めない」といった何らかの改善を求めるものが少なくなかった。後者の問題提起は、より良い放射線安全取扱部会の活動を目指す上で見逃せない重要なものであり、今後の検討事項としなければならない。

1-2 特別講演Ⅰ 放射性同位元素等の規制に係る最近の動向

原子力規制庁の室長による放射線規制に係る最近の動向に関する講演は、「具体例があって分かりやすい」という評価の半面、「予防規定との関連をもう少し掘り下げてほしい」、「法令改正の進捗状況や室長の考えを知りたい」、「将来的な話題提供もお願いしたい」など多岐にわたる要望を示すコメントが目立った。放射線安全管理に携わる参加者にとって、放射線規制に係る講演は、年次大会で最も重要視しているプログラムの 1 つであり、その内容に関する期待

度は非常に高く、より掘り下げた内容を求める意見が過半数を占めたものと考えられる。評価点は 3.3 であった。

1-3 シンポジウムⅠ ここまで来た獣医療での放射線利用（一般公開）

コメントのほとんどが、「獣医放射線科学の動向が分かった」、「北海道の地域性があった良かった」、「普段は聴けない内容であった」と好評であり、評価点も 3.9 と高い数字を示した。

1-4 特別講演Ⅱ 豊かな海の秘密（一般公開）

「地球規模の壮大な研究で興味深い」、「放射線以外の講演も知識を広げ、研究姿勢を学ぶ上で良い」との意見が大勢を占めた。講演時間の制限からか、少数ながら「今後についての考察がもっと欲しかった」、「やや物足りなかった」との意見もあったが、評価点は 4.1 と高いものであった。

1-5 シンポジウムⅡ 学校教育における放射線教育

コメント数が最も多く、放射線教育に関する関心の高さがうかがわれた。「ワーキンググループの資料作製に敬意を表する」、「大変参考になった。今後の教育に活用したい」という高評価のコメントが 2 桁の数に上った。「教育の重要性とともに難しい面が多いことも理解できた」、「教育の現状が分かって良かった」、「教師のレベルアップが重要である」という意見も寄せられた。負評価のコメントはほとんどなく、評価点は 4.1 と高いものであった。

1-6 特別講演Ⅲ 最先端陽子線がん治療装置の開発—北海道大学における陽子線治療の開始と今後の展開—

評価点が 4.4 とプログラム中最高点を示した。「最先端技術を分かりやすく説明され、非常に理解しやすかった」、「夢のある治療に期待したい」とのコメントが多数寄せられ、負評価は皆無であった。

1-7 シンポジウムⅢ 放射性廃棄物の現状と課題

「難しい内容であるが、課題の重要性を認識できて良かった」という好評価が約半数を占めた一方で、一般の RI 施設に役立つ問題も取り上げてほしかったとの意見もあった。評価点は 3.8 であった。

1-8 ポスター発表

有効回答率 89%。「いつもより数が多く、興味深いものが多い」、「現場で活かせるものが多い」というポスター内容に関する高い評価とともに「活発な議論がされて良かった」という声も大きかった。ただ、コメントの 30%に「会場が狭い」、「時間が短すぎる」という意見が見られ、我々の反省とともに次回の大会の参考にしなければならないと思う。評価点は 3.8 であった。

1-9 相談コーナー

相談コーナーを利用しなかった人は 68%で、有効回答率は 21%である。相談コーナーを利用した人からは、「相談員にベテランが揃っていて、分かりやすい説明であった」、「個別に相談できるので有難い」という意見が寄せられた。

1-10 書籍コーナー

約半数の人が書籍コーナーに立ち寄っており、有効回答率は 44%。「展示書籍の数が少なかった」という声と「この場で申込のみ受け付け、後日配送」という提案もあった。

1-11 機器展示

不参加は 19%で、有効回答率は 75%であった。「製品を直接手に取り比較できるという点では有意義であった」、「更に多くの企業の参加を期待したい」とのコメントがあった。

1-12 要旨集

「いつも通りしっかりとしたものになっていた」との評価の一方で、「パワーポイントの資

料が欲しい」、「もう少し図が多くあれば活用しやすくなるのではないか」、「ホームページより参加者限定で PDF をダウンロード可能にしてほしい」などの要望が寄せられた。今後の検討課題とする必要がある。評価点は 3.6 であった。

1-13 交流会

交流会には約 200 名の参加を得た。「人との交流を深める点で良かった」、「参加型のよさこいそーらんが良かった」との評価はあるものの、「料理が少なかった」とのコメントが多数寄せられた。評価点も 3.1 と低く、実行委員会として反省するとともに、アンケートの中で「Web や E-mail で参加予定者数を把握し、適量を用意する」との具体的な提案があったので、今後これを参考にして検討するのが良いと考えている。

2 放射線安全取扱部会の活動について

2-1 興味のあるテーマ

アンケート結果は図 3 に取りまとめた。参加者の興味あるテーマとして、10%以上を示したものは、教育訓練 54%、緊急時の対策 35%、放射線利用 27%、社会貢献 25%、廃棄物処理 23%、主任者の地位 21%、諸外国の動き 19%、安全管理状況の点検 18%、設備・機器の品質管理 17%、記帳記録 12%、内部被ばく 10%である。コメントには、「福島関連のシンポジウムの継続」や「教育訓練以外の放射線教育」、「ヒヤリハット」や「事故・違反防止」のアイデア、「施設改善や機器整備の推進」に関するテーマなどが挙げられていた。

2-2 支部が主催する教育訓練講習会について

開催頻度について、適当である 81%、少ない 3%、無回答 16%である。講習内容については、適切 77%、不適切 1%で、無回答 23%で、概ね適切と評価されている。「実施時期や装置

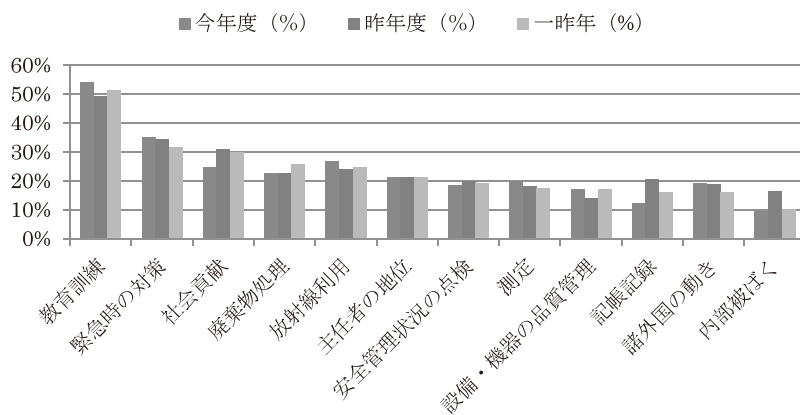


図3 今後の研修会で取り上げてほしいテーマ（10%以上のテーマ）

の安全取扱を含む講習内容の検討」のコメントが寄せられた。

2-3 年次大会の各支部持ち回りについて

年次大会の持ち回り開催について91%が賛成意見である。「地域の活動の特徴を知ることにも勉強になるので良い」という持ち回り開催を支持する意見の一方で、「交通の便を考慮した方が良い」、「同じ地域の方が出張しやすい」というコメントもあった。また、「業務の集中する月初めや月末を避けてほしい」という開催時期に関する検討事項も挙げられていた。

2-4 その他

その他の項目で、「増加している加速器の安全の問題」、「次世代技術継承のための具体的な活動の開始」や、「RIと医療、教育、生命、原子力、加速器との相互協力できるネットワークの構築」などの積極的な取組を促す意見があった。さらに、「部会のホームページを使った、新たな市民への放射線理解の支援活動」の提案もあり、今後の部会活動を考える上で有意義なものである。

3 参加者について

3-1 性別・年齢

男性が85%を占めており、年齢構成は20歳代3%、30歳代17%、40歳代25%、50歳代33%、60歳以上が18%である。若年層が少なく、50歳代以上が半数を占めているのが特徴的である。

3-2 所有免状・身分について

複数回答があり、加算して集計したものである。所有免状は第1種主任者が88%、第2種主任者が8%、薬剤師が2%である。身分は、事業所長1%、管理職20%、一般職29%、教育研究職34%、医療従事者8%である。

3-3 主任者選任、日本アイソトープ協会会員、放射線安全取扱部会会員

主任者の選任状況は、選任66%、非選任29%。回答者のうち、71%がアイソトープ協会会員であるが、25%は非会員であり、放射線安全取扱部会への加入率は53%である。参加者のアイソトープ協会と放射線安全取扱部会への加入率は前年に比べやや増加している。

3-4 参加頻度について

毎年参加が61%、隔年5%、時々18%、初めて12%である。

4 参加者の所属事業所について

4-1 事業内容

医療機関 10%，教育機関 48%，研究機関 18%，民間企業 23%であり，教育機関が約半数を占める。民間企業が30%を超えた前年に比し，その割合が低下している。

4-2 使用形態

87%が許可使用である。ほかは，届出使用6%，販売業5%，放射性医薬品製造3%，使用していない3%，廃棄業1%，機器メーカー1%である。

4-3 施設

非密封 RI 施設 75%，密封 RI 40%，発生装置 25%，設計認証機器 8%，非破壊検査 4%である。

4-4 所在地

関東 31%，近畿 16%，中部 15%，中国・四国 11%，九州 9%，東北 8%，北海道 5%の順である。北海道の開催であったため，例年より東北，北海道が高く，九州が低かったものと考えられる。

4-5 放射線業務従事者数

20人以下 17%，21～40人 14%，41～60人 13%，61～80人 1%，81～100人 11%，101～200人 17%，201～300人 5%，301～500人 5%，501～1,000人 2%。約半数は放射線業務従事者60人以下である。

4-6 選任主任者数

選任主任者 1人 39%，2人 28%，3人 10%，4人 7%，5人以上 10人まで 3%である。

おわりに

本大会では「放射線の安全教育と放射線利用のさらなる向上を目指して!!」というメインテーマを掲げ，放射線の正しい理解をどう進めるか，放射性廃棄物の処理はどうなるのか，脱アイソトープの傾向の中で RI の有効利用をどう推進するのかといった課題を特別講演やシンポジウムで取り上げ，議論してきました。我々実行委員会は参加された方々の日頃の活動に少しでも役立つことができればという思いで活動してきましたが，参加者の皆様に大会運営に協力していただき，アンケートで本大会全体として良い評価をいただいたことに感謝しております。

紙面の都合でアンケートの全てのコメントを紹介できませんでしたが，大変有用な意見を多数いただきました。皆様の意見は次回の大会実行委員会に引き継いでいきます。今後，放射線安全取扱部会のより良い活動を推進していくためには，更に多くの方，特に“若手”や“女性”が積極的に参加し，率直な意見を交換し，議論する場を皆で作りに上げていく努力が必要であることを強く感じました。

本大会は7年ぶりの札幌市での開催となり，遠隔地にもかかわらず多数の参加をいただき，アンケートにも多くの方の協力をいただきました。本大会に参加してくださった皆様に対して実行委員会より厚く御礼申し上げます。

(大倉一枝)